



慶應義塾大学ビジネス・スクール

原美術館

5

1998年の秋も深まる頃、翌年に創立20周年の節目を迎える原美術館のスタッフは、記念イベントの準備に忙殺されていた。原美術館では、翌年2月に開催予定のアーティストのクリスト氏の講演会を皮切りに、4月にはロバート・ストア氏の講演会、夏にはさまざまな映像作家や作曲家、舞台芸術家、ダンスグループ、パフォーマーなどのコラボレーションによるオリジナル・

10

パフォーマンス・イベント、さらに秋には評論家の南條史生氏による見学会や、慶應義塾大学北新館ホールにおいて開催予定のアーティストのソフィ・カル氏による講演会など、一連の記念イベントを計画していた。

日本で唯一（当時）の現代美術専門の美術館として1979年に開館して以来、20年間にわたって海外の現代美術の日本への紹介や、日本の若き現代アーティストの海外への紹介などに努めて

15

きた同美術館だったが、日本ではまだまだ現代美術の知名度や人気は低く、20年目の節目を迎える翌年に向けて、同美術館では今後の運営・展開についてさまざまに思いを巡らせていた。

第1章：原美術館

20

原俊夫と美術館設立の経緯^[1]

原俊夫は、幕末から大正時代にかけて活躍した実業家原六郎を初代に数える名家原家の第四代当主として、昭和10年（1935年）に生まれた。昭和33年に学習院大学政経学部を卒業後、アメリカのプリンストン大学に留学し、帰国後日本航空（株）に就職した。しかし戦争中に父を亡

25

^[1] 本節の記述は、以下の文献に依拠している。田中日佐男，1995、『現代の美術コレクター—美術館をつくった人々—』日本経済新聞社、田島三津雄，1992、『うちの美術館』新潮選書

本ケースは、慶應義塾大学平成11年度大型研究助成プロジェクトの一環で、教材として作成されたものであり、特定の経営状況の巧拙を論じるものではない。ケース作成は、和田充夫（慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授）監修の下、澁谷 覚（慶應義塾大学大学院経営管理研究科博士課程—2000年11月現在）が行った（2000年11月）（改訂2001年10月）。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 澁谷 覚（2011年12月作成）